2004 年度 委員会活動成果報告

（2005 年 2 月 18 日作成）

委員会名	高強度鉄筋コンクリート構造小委員会	主 査 名：平石久廣
所属本委員会 （所属運営委員会）	構造本委員会 （鉄筋コンクリート構造運営委員会）	委員長名：西川孝夫 主 査 名：林　静雄
設　置　期　間	2004 年 4 月　～　2008 年 3 月	
設　置　目　的 各年度活動計画	目的：100N/mm^{2}以上の高強度コンクリートを用いた鉄筋コンクリート構造の健全な実用化・発展を促すために，調査・検討し，成果として「高強度コンクリートの技術の現状」（1991 年出版）の後継本を出す。 各年度活動計画：①初年度；Fc100N/mm^{2}以上のコンクリートを用いたR/C部材及び建築物の調査・分析，②2 年度 ；初年度調査に基づき「報告書」作成，及び将来展望の検討，③3 年度；PDの開催と 2 年度の補充，④4 年度；活動成果の出版とシンポジウムの開催。	
委員構成 （委員名（所属））	寺岡 勝（フジタ），津田 和明（大林組），和泉 信之（戸田建設），柏崎 隆志（千葉大学），木村 秀樹（竹中工務店），熊谷 仁志（清水建設），小室 努（大成建設），勅使川原 正臣（名古屋大学），西山 峰広（京都大学），濱田 真（熊谷組）丸田 誠（鹿島建設），渡邊 朋之（前田建設工業），森本 敏幸（銭高組），渡辺 一弘（都市再生機構）	
設置 WG （WG 名：目的）	現時点では無し。本小委員会の活動上，必要になったら WG の立ち上げを申請する(ただし，昨年の本小委員会立ち上げ時には，WG の立ち上げ申請を既にしている)。	
2004 年度予算	320,000 円	

項　　目	自己評価
委員会活動状況 （開催日・参加人数）	第 1 回：4/12，9 人（準備会） 第 2 回：5/25，12 人 第 3 回：7/26，9 人 第 4 回：9/27，10 人 第 5 回：11/29，10 人 第 6 回：1/31，8 人 （第 7 回：3/22 開催予定）
得られた成果	（成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無） Ⅰ. 成果の具体的内容: ①1991 年度 当会出版の「高強度コンクリートの技術の現状」の後継本を成果として本委員会終了時に出版することを確認。 ②調査範囲を 60N/mm^{2}以上とし，現在使用されている建築学会の諸基・規準のR/C部材性能評価式との連続性を考慮した評価式を検討する事を確認。 ③100N/mm^{2}以上の高強度コンクリートを用いたコンクリートの諸性状，部材性能および建築物については，全資料を収集し検討・分析を行う事を確認。 ④以上の方針の基に，目次案の作成と各部材及び建物性能評価の担当者を決定し，既存資料の調査・収集・分析を実行。更に，執筆内容について，担当者，或いは担当グループで検討中。 Ⅱ. ホームページでの公開: 目的，構成委員および議事録について公開し，本委員会の進捗状況を学会会員が知ることを可能としている。
	委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/kouzou/s9/
目標の達成度	（当初の活動計画と得られた成果との関係） 本年度（初年度）の目標は，上記に示すように設計基準強度Fc60N/mm^{2}以上のコンクリートを用いたR/C部材および建築物の調査・分析を行うことである。これに対し，本小委員会では積極的に活動し，**目標の達成度は 100%**である。
その他評価すべき事項	本小委員会とほぼ同じ目的の日本コンクリート工学協会の「高強度コンクリート構造物の構造性能研究委員会」の活動と連携し，効率的に本小委員会の活動を行った。